

58. 高次脳機能障がい者(児)に対する地域の 相談・支援関係の連携体制のあり方について

玉名地域振興局管内（2市4町）



- 水田秀雄（旧所属 熊本県玉名地域振興局 現所属（社）若宮福祉会）
- 大籠安男（有明地域リハビリテーション広域支援センター）
- 宋 久美（熊本県地域拠点型認知症疾患医療センター）

【はじめに】

熊本県玉名地域振興局保健福祉環境部福祉課では、平成23年度において高次脳機能障がい研修会を管内全市町巡回方式で、地域の関係機関や職能団体と共催し開催したいところである。

このことは、熊本県下初の試みとして多くの方の注目を得たところである。

しかし、初の試みは前例がなく、模索状態であり実施後に本題となる地域における支援の連携体制の重要性が浮上した。

また、当事者やそのご家族との関わりのなかでより若い世代へ支援のあり方も強く認識された。

本事業は、平成23年度の取り組みをもとに、より一層の普及啓発活動を目的に公益財団法人大同生命厚生事業団の助成事業を受けて行ったものである。

【目的】

平成24年度、保育や教育関係者まで枠を広げて、関係者とのネットワークのあり方について検討を行うことを目的としている。

また、この連携体制を検討する際は、日々その養育や介護の中心を担う家族を中心に据えて、当管内の教育・福祉・医療・介護等の垣根を超えた相談支援体制づくりを、疾患理解の普及啓発活動（研修会）と並行して行う。

【取り組み概要】

保育・教育関係者を対象とする研修会（第1回研修会）、介護・福祉に関わる専門家を対象とする研修会（第2回）を開催。

後日、関係者連携を目的に意見交換会を開催。

1. 第1回研修会

管内の小中学校、保育園等にも案内を行った（参加者47名）。

日時 平成25年2月16日（土） 午後1時30分から4時

場所 九州看護福祉大学 2号館大講義室2



講演

- ・保育・教育関係者を含めて研修を行うことから、高次脳機能障がいからも発生しがちな「いじめや不登校につながる～子どもの高次脳機能障がいと学習障がいについて」をテーマに熊本保健科学大学教授小菌真知子氏に講演をお願いした。



座談会

- ・講演後の座談会・意見交換会は「ゼロからのスタート～高次脳機能障がいと向きあいながら」と題し、高次脳機能障がいの方の家族である一ノ瀬純二さん、一ノ瀬まゆみさんご夫妻からのお話をもとに進めた。



2. 第2回研修会

専門職を対象に案内を行った（参加者93名）。

日時 平成25年2月18日（月） 午後2時30分から4時

場所 九州看護福祉大学 2号館大講義室2



講演

- ・「障がいがある方を支える地域のネットワークづくり～大分精神障害者就労推進ネットワークの取り組み～」

講師：九州ルーテル学院大学教授 三城大介氏



座談会

- ・「高次脳機能障がいをもつ方を地域で支援する人々」
- ・コーディネーター
ひとちいき計画ネットワーク 佐伯謙介氏
- ・パネラー

九州ルーテル学院大学教授 三城大介氏

熊本保健科学大学教授 小菌真知子氏（熊本県言語聴覚士会会長）

高次脳機能障碍『ぷらむ』（家族会）代表 一ノ瀬純二氏

地域生活支援センターふれあい センター長 今野えり子氏

デイサービスセンターわだち製作所 管理者 西村哲夫氏

有明地域リハビリテーション広域支援センター（有明成仁病院）

作業療法士 西島万里子氏

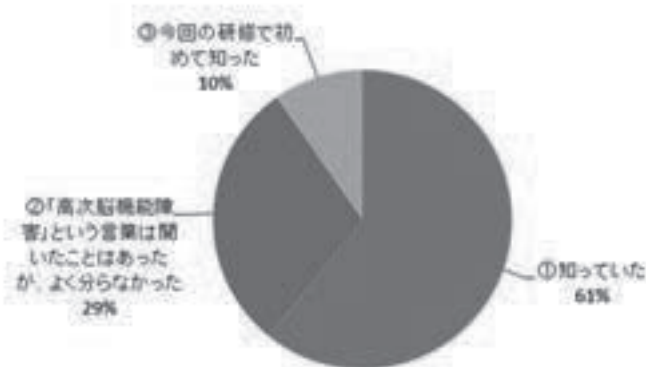


3. 高次脳機能障がい研修会参加者アンケート結果（抜粋）

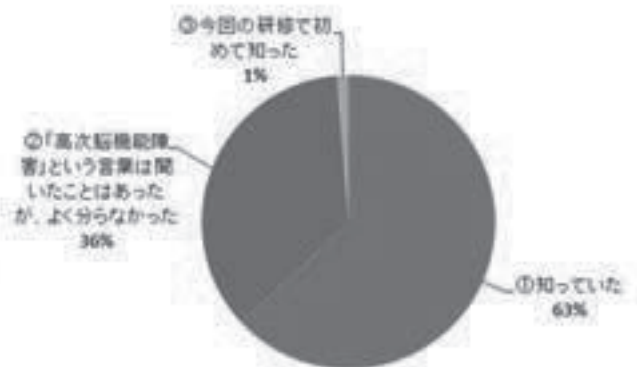
1回目、2回目とも会場との意見交換とともにアンケートを行った

問 研修会を受ける前は、高次脳機能障がいについて知っていましたか？

第1回、第2回とも「知っていた」が60%を超えている。



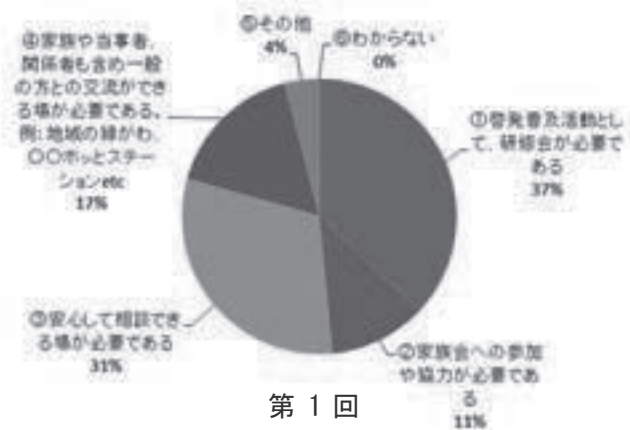
第1回



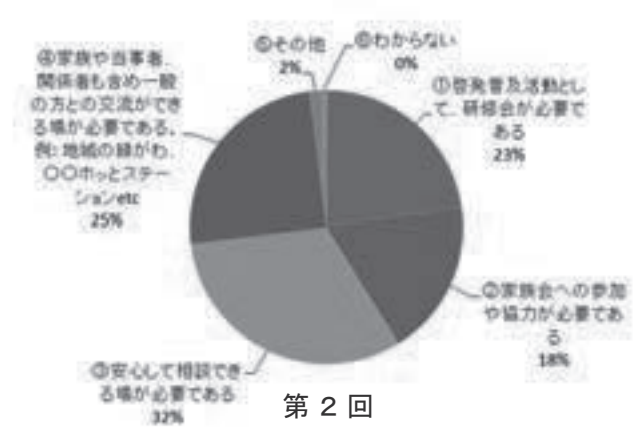
第2回

問 私達が地域における高次脳機能障がいへの取り組みを強めていくためには、今後、地域でどのようなことが必要と感じていますか？（複数回答）

第1回参加者では「啓発普及」の割合が、第2回では「相談の場」の割合が高い。



第1回



第2回

4. 意見交換会

日時 平成25年3月27日（水） 午後6時から8時

場所 有明保健所2階会議室

第1回、第2回研修会での講師やパネラーを交え、圏域内の各種専門職メンバーでの意見交換会を行った。

テーマ 「高次脳機能障がいの理解と支援を広げていくために特に必要なこと」

コーディネーター ひとちいき計画ネットワーク 佐伯謙介氏

パネラー

九州ルーテル学院大学教授 三城大介氏

熊本保健科学大学教授小菌真知子氏(熊本県言語聴覚士会会長)

高次脳機能障害『ぷらむ』(家族会)代表 一ノ瀬純二氏

デイサービスセンターわだち製作所 管理者 西村哲夫氏

有明地域リハビリテーション広域支援センター(有明成仁病院)

作業療法士 西島万理子氏



4つの班に分かれフリートーク。「特に今後、理解と支援を広げるために必要なこと」を3つにまとめる。

●各班の意見

1班

総合相談の仕組みのアイデアがまとめられた。

静岡県での事例を基に、医師、ソーシャルワーカー、リハビリ専門、福祉、就労・復学支援等専門家、さらに家族の会等が一堂に会する相談支援事業を行えるような体制作りを進める（荒玉モデル）。

また、高次脳機能障がいのこと自体を各種メディアを活用し世論に広げることも必要とされた。

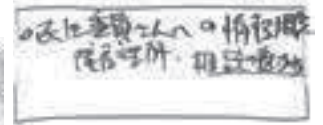
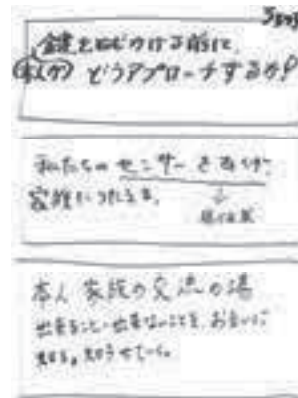
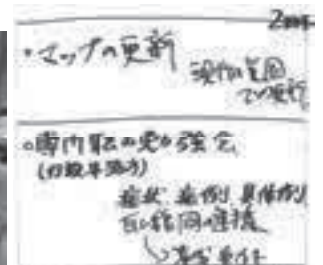


2班

家族へ社会資源の活用を進めるにあたって、荒尾玉名地域に、そもそもどのような社会資源があるのかがわからない。そのため、社会資源マップの更新が挙げられた。

また、専門職自体の勉強や多職種間の連携も必要とされた。

地域で課題を抱える人や家族を、支援につなげる前提として、地域での課題発見に取り組まれている民生委員への高次脳機能障がいの理解促進も考えられた。



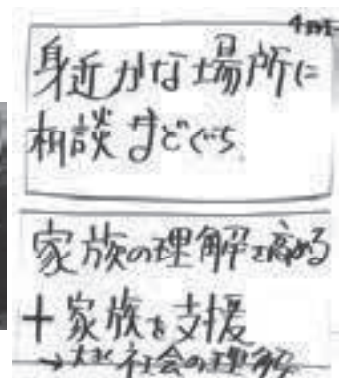
3班

本人や家族への関わりを中心に意見交換が行われた。本人や家族を孤立させないために、専門職自身のアドバイスの充実や、本人・家族の交流の機会づくりが必要とされている。

4班

分かりやすく身近な相談窓口が必要とされている。

そのためにも、学校の教職員等をはじめ社会全体の理解を幅広く進めることが考えられた。



●参加者の感想

●継続した研修

- ・継続していくことが何より大切と思います。
- ・お互いの情報交換は何らかの形で必要であると思う。さらなる会の発展を期待いたします。
- ・熊本県全域の先進モデルとして研修会を継続して下さい。いつでも参加します。
- ・勉強を継続していくことは、私達にできる理解の一步だと思います。研修会への参加をしていきたいと思っています。本日はありがとうございました。
- ・勉強会ぜひやりましょう。バーンアウトしない為にも…。

●連携・ネットワーク

- ・今、行っている業務を通して高次脳機能障がいについての理解を深め、さらに圏域でのネットワーク作りに一端を担えればと思います。家族会やピアカウンセラーも。

●地域との連携

- ・院内だけにとどまらない。もっと地域に目を向けた支援をしていく必要性を感じた。社会資源をもっと幅広く知って、関係を深めていきたい。



5. 全体まとめ

平成23年度に引き続き実施したことで、今年度は教育関係者への啓発にもつなげることができた。また、23年度から継続した参加者も多かった意見交換会では、「継続的な勉強会」や「事例検討会」の開催を望む意見が多く出された。講師謝礼等がなくても参加・関わりたいとの講師からの申し出もあり、費用をかけない方法での勉強会・情報交換会の開催が考えられる。地域振興局機能が縮小されているため、今後は有明地域リハビリテーション広域支援センター（有明成仁病院）を中心として、これまで築いてきたものをどのように継続、発展させていくか検討していくこととなった。それにあたって、地域拠点型認知症疾患医療センター（荒尾こころの郷病院）や、障がい者相談支援事業所との一層の連携も必要と考えられる。なお、長期的には意見交換会で考えられた総合相談「荒玉モデル」の組み立てが望まれる。そのため、各種専門職連携を進めるなかで、その検討も課題である。

【経費使途明細】

講師費（研修会6名分、意見交換会5名分）	181,400 円
旅費（研修会6名分、意見交換会5名分）	18,513 円
講師お茶代	2,826 円
印刷費（チラシ・資料・報告書作成等）	62,230 円
参考文献費	10,180 円
通信費（切手等）	24,880 円
合計	300,029 円